

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	250人	社会	251人	数学	251人
	理科	250人	英語	250人		

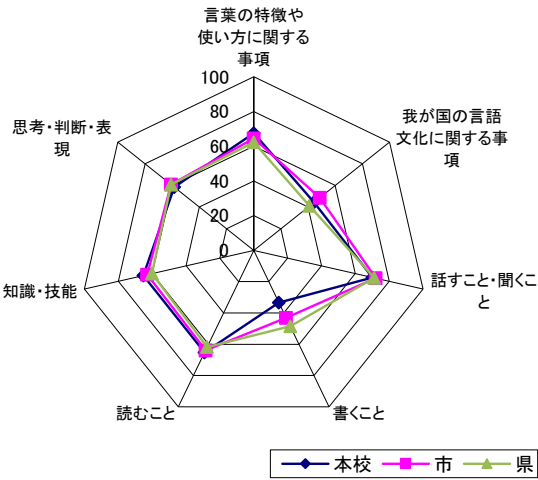
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	67.5	64.5	62.3
	我が国の言語文化に関する事項	44.4	48.7	41.1
	話すこと・聞くこと	70.1	72.1	71.2
	書くこと	33.3	43.1	48.5
	読むこと	65.2	63.9	61.8
観点	知識・技能	65.2	62.9	60.1
	思考・判断・表現	58.5	60.8	60.8



★指導の工夫と改善

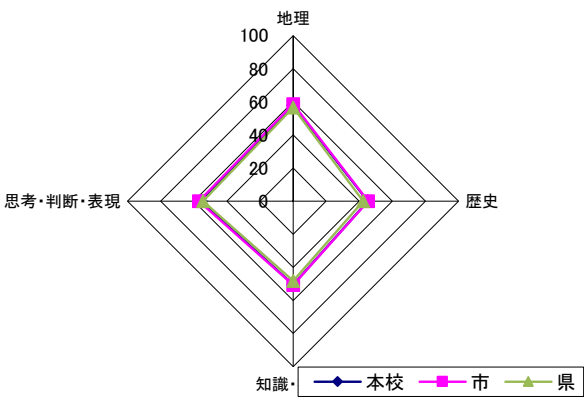
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○漢字の読み書きは6問中5問が、県や市の正答率よりも高かった。 ○「短歌で用いられている表現技法を選ぶ」問いでは、市の正答率よりも1.1ポイント高かった。 ●「文節の関係が同じ文を選ぶ」問いでは、市の正答率よりも6.3ポイント低かった。	今年度は、学習漢字ノートを購入し、家庭学習や小テストを行っている。引き続き、漢字力や語彙力の向上に努める。 文法の単元では、今まで習ったことを振り返りながら行っているため、1年生で習った内容の確認をするよう工夫する。
我が国の言語文化に関する事項	●「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す」問いでは、県の正答率よりも高かったものの、市の正答率よりも4.3ポイント低かった。	古文の授業では、既習事項の確認を行いながら授業を展開し、歴史的仮名遣いについても確認する。
話すこと・聞くこと	○「話し手の話し方として適するものを選ぶ」問いでは、市の正答率よりも1.4ポイント高かった。 ●「条件に従って話し合いのまとめを書く」問いでは、市の正答率よりも6.8ポイント低かった。 ●「司会者の話し合いの進め方の工夫として適するものを選ぶ」問いでは、市の正答率よりも3.6ポイント低かった。	「話すこと・聞くこと」の単元や話し合い活動を通して、より良い話し合いの実現や話し合いを通して学んだこと等を振り返る時間を作る。
書くこと	●「資料を読み、8行から10行の間で文章を書く」問いでは、市の正答率よりも13.0ポイント、県の正答率よりも18.7ポイント低かった。 ●「資料を読み、2段落構成で文章を書く」問いでは、市の正答率よりも10.9ポイント、県の正答率よりも16.7ポイント低かった。	「書くこと」は、この学年の1番の課題である。授業を通して、自分の考えを根拠を基に書かせる練習を繰り返し行う。 書いたものをお互いに評価させることで、文章の書き方・まとめ方に気付かせる。
読むこと	○「文章の内容をふまえた募集ちらしの書き方として適するものを選ぶ」問いでは、市の正答率よりも4.7ポイント高かった。 ○「空欄に当てはまる言葉の組み合わせとして適するものを選ぶ」問いでは、市の正答率よりも4.2ポイント高かった。 ●「空欄に当てはまる言葉を文章中から抜き出して書く」問いでは、市の正答率よりも2.8ポイント低かった。	基本的な読み取りについては正答率が高いので、より深く読み取れるよう話し合う活動や、読み取ったことをまとめて書く活動を増やしていく。

宇都宮市立清原中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	57.9	58.7	56.6
	歴史	45.2	45.4	42.4
観点	知識・技能	50.5	50.7	48.2
	思考・判断・表現	55.8	56.9	54.4



★指導の工夫と改善

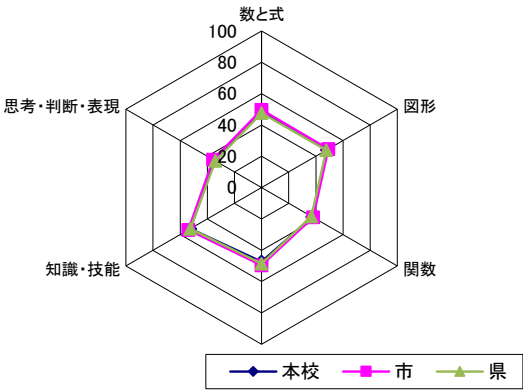
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	平均正答率は、市全体平均よりも0.8ポイント低く、県全体よりも1.3ポイント高い。 ○問題番号1-2,3-1,3-2,3-4-1,3-4-3などの資料の読み取りを必要とする問題では、市や県全体の平均よりも高く、資料から読み取る学習について十分な力を発揮していると考えられる。 ○熱帯と冷帯の住居についての問題では、市や県全体の正答率を大きく上回っており、非常に深い理解を示していると考えられる。 ●問題番号2-4、単元のまとめの内容を踏まえて考察する問題については、市や県全体の正答率を大きく下回っており、単元を端的にまとめることに課題があると考えられる。	・資料の読み取りをする力が定着しているが、単元ごとの学習のまとめが不足していることが今回の調査よりうかがうことができた。今後は、単元ごとのまとめにも力を入れ、社会的事象個々の果たしている役割や事象相互の結びつきなどを視野に、様々な側面、角度からとらえることができるようにする。
歴史	平均正答率は、市の平均よりも0.2ポイント低く、県全体よりも3.2ポイント高い。 ○問題番号4-3,4-4などの古代の日本に関する資料を読み取る問題については、正答率は市や県全体を大きく上回っており、非常に高い理解を示していることが分かる。 ●問題番号4-2、弥生時代の社会の様子に関する問題では、正答率が市や県全体を大きく下回っており、また、無解答率も市や県全体より高いことから、理解を深められていないことがうかがえる。	・弥生時代以前の学習内容の定着が不十分であると考えられるため、他の単元とのつながりなどを意識しながら復習を定期的に行い、学習を深めることができるようにする。 ・学習課題が適切かどうかを答える問題について、正答率が低いことから、各単元の学習においてつながりを意識できていないと考えられる。そのため、学習課題の意識付けや単元ごとのまとめをより積極的に行い、歴史的事象のつながりをもって考察することができるようにする。

宇都宮市立清原中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	48.3	49.7	47.6
	図形	48.1	49.2	47.7
	関数	37.3	38.0	36.8
	データの活用	47.3	49.6	48.5
観点	知識・技能	52.5	54.0	52.5
	思考・判断・表現	34.9	35.8	34.1



★指導の工夫と改善

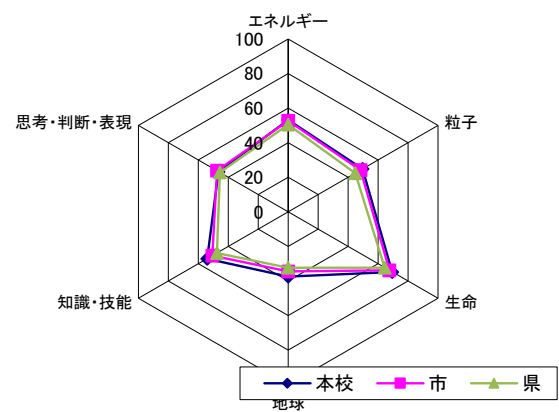
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	本校の平均正答率は、県の正答率より0.7ポイント高く、市の正答率よりも1.4ポイント低い。 ○四則の混じった計算や1次方程式の基本的な問題は概ね理解していると考えられる。 ●1次式の減法を計算する問題の正答率が、県の正答率と比べ3.8ポイント、市の正答率と比べ4.6ポイント低い。	・基礎的な四則の計算は概ね理解できていると推測できるが、少しでも複雑になってしまうと苦手意識をもってしまふことがわかる。特に減法においては、符号の定着が不十分であることも考えられるため、数をこなして理解する必要があると考える。また、理解はできているが、計算ミスをしてしまっていることも考えられるため、見直しの大切さも伝えていきたい。
図形	本校の平均正答率は、県の正答率よりも0.4ポイント高く、市の正答率よりも1.1ポイント低い。 ○角の二等分線の作図の問題の正答率が、県の正答率よりも4.8ポイント、市の正答率よりも5.8ポイント高い。 ●おうぎ形の面積をもとに、おうぎ形と半径が等しい円の面積を求める問題の正答率が、県の正答率と比べ5.9ポイント、市の正答率と比べ4.7ポイント低い。	・垂直二等分線や角の二等分線など、基本的な作図の仕方については概ね身に付いていると考えられる。また図形の移動においても概ね身に付いていると考えられる。しかし、立体の体積や球の体積・表面積の計算はまだ覚えることができていない生徒がいるため、問題を解きながら理解させたい。
関数	本校の平均正答率は、県の正答率よりも0.5ポイント高く、市の正答率よりも0.7ポイント低い。 ○変域を示して比例のグラフを説明する問題の正答率が、県の正答率と比べ5.1ポイント、市の正答率と比べ4.0ポイント高い。 ●会話文から反比例の式を求める問題の正答率が、県の正答率と比べ1.7ポイント、市の正答率と比べ3.3ポイント低い。	・用語の意味や性質をしっかりと復習する必要がある。1次関数の授業において、式と表とグラフの関係について、理解が深められるよう丁寧に説明する。特に反比例について振り返りができるような機会を設ける。
データの活用	本校の平均正答率は、県の正答率よりも1.2ポイント、市の正答率よりも2.3ポイント低い。 ○度数分布表から、累積度数を求める問題の正答率が、県の正答率と比べ4.5ポイント、市の正答率と比べ1.8ポイント高い。 ●度数分布表から、相対度数を求める問題の正答率が、県の正答率と比べ6.1ポイント、市の正答率と比べ7.4ポイント低い。	・データの活用については、用語をもう一度確認する。また、求め方だけでなく、その値のもつ意味を理解させる。また、身の回りの事例なども参考にしながら、記述したり説明したりする活動を取り入れていくことで、説明問題に強くさせていきたい。

宇都宮市立清原中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	53.2	52.7	50.5
	粒子	49.7	48.3	44.9
	生命	69.4	67.6	64.4
	地球	37.4	34.4	32.3
観点	知識・技能	54.1	50.7	47.6
	思考・判断・表現	46.5	47.6	45.6



★指導の工夫と改善

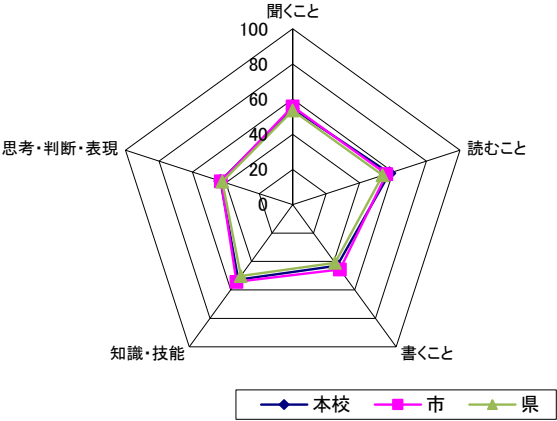
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	本校の平均正答率は、県の平均を2.7ポイント、市の平均を0.5ポイント上回っている。 ○おもりにとはたらく重力とばねの伸びの関係をグラフに表す問題では正答率が県や市の平均を上回っている。 ●ばねにおもりを付けたときの重力とつりあっている力について問う問題では、正答率が低い。	表をグラフにしたり、用語などの知識を答えることはよくできており、今後も基礎的・基本的な知識・技能の習得に力を入れていきたい。 一方、力の働く方向を示すことについてなど、より注意深く考える必要がある問題を苦手としている傾向があり、ポイントをきちんと押さえて深く理解できるように復習したい。
粒子	本校の平均正答率は、県の平均を4.8ポイント、市の平均を1.4ポイント上回っている。 ○メスシリンダーの使い方について正しいものを選ぶ問題では正答率が県や市の平均を上回っている。 ●質量パーセント濃度の計算の問題では、正答率が低い。	実験器具の使い方や用語についてよく理解しており、正答率が高い傾向があるので、今後も新たな知識や技能の習得がきちんとできるよう、基本事項を押さえて指導したい。 ただし、現象と物質の性質を関連付けて表現する問題など、応用的な判断力・表現力が不足している傾向があるので、表現する活動を取り入れつつ、思考力・判断力・表現力の育成に努めたい。
生命	本校の平均正答率は、県の平均を5.0ポイント、市の平均を1.8ポイント上回っている。 ○両生類と爬虫類の分類についての問題では、正答率が県や市の平均を上回っている。 ●ブロッコリーの花のつくりについての問題では、正答率が低い。	全体的にどの問題も正答率が県や市の平均を上回り、よく理解している。今後も正しい知識・技能を身に付けられるよう指導したい。 一方で、左記の「ブロッコリーの花」など、教科書にない初見の生物を題材にした問題では正答率が下がるので、一般的な知識を初見のものにも当てはめられるよう、より幅広い応用力が身に付くよう指導していきたい。
地球	本校の平均正答率は、県の平均を5.1ポイント、市の平均を3.0ポイント上回っている。 ○初期微動継続時間と名称を答える問題では、正答率が県や市の平均を上回っている。 ●柱状図の様子から地層の傾斜を推測する問題では、正答率が県や市の平均を下回っている。	用語などの基本的な知識を問う問題はよくできているので、知識の習得については引き続き指導していきたい。 一方で、状況を整理して推測する問題や時間的・空間的に物事を考える問題は苦手としている傾向があるので、習得した知識を活用して考える、思考力・判断力を養う場面を授業中に設定して、その育成に努めたい。

宇都宮市立清原中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	54.6	55.8	53.5
	読むこと	57.9	56.0	53.8
	書くこと	43.0	45.6	40.9
観点	知識・技能	52.8	54.3	50.2
	思考・判断・表現	43.2	42.9	42.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	本校の平均正答率は、県の平均より1.1ポイント高く、市の平均より1.2ポイント低い。 ○対話文を聞き、空欄に当てはまる語を選択する問題では、県の平均を7.5ポイント上回っている。 ●日常的な話題について話の概要を聞き取る問題では、県の平均より4.5ポイント下回っている。	・授業内でのクラスルーム・イングリッシュの使用頻度を高めることで、生徒が英語を聞く機会を増やしていく。 ・授業内でスモールトークを取り入れ、まとまりのある文を聞いて概要を捉えたり必要な情報を把握するような場面を増やしていく。
読むこと	本校の平均正答率は、県の平均より4.1ポイント、市の平均より1.9ポイント高い。 ○英文を読み、概要として適切なものを選ぶ問題では市の平均より7.4ポイント、県の平均より7.8ポイント上回っている。 ●無解答率が県の平均よりも0.5ポイント高い。	・授業内の会話活動を通じて、語形や語法の知識・理解を定着させる。 ・本文や単元ごとの単語テストを実施し、語彙の定着を図る。 ・引き続き、概要をまとめる活動を行い、文の量を多くするなど、英文から必要な情報や内容を読み取る機会を増やす。
書くこと	本校の平均正答率は、県の平均より2.1ポイント高く、市の平均よりも2.6ポイント低い。 ○三人称を使った肯定文では、県の平均より5.9ポイント上回っている。 ●現在進行形の肯定文を書く問題では、市の平均を7.2ポイント下回っている。 ●canを用いた否定文を書く問題では、県の平均を9.8ポイント下回っている。	・正しい語形や語順を身に付けさせた上で、簡単なトピックについて表現する(話す・書く)機会を授業内で多く設ける。 ・書くことに苦手意識を感じている生徒が多いため、授業で積極的に英文を書く活動を取り入れる。

宇都宮市立清原中学校 第2学年 生徒質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、よいところがある」は3.5ポイント、「自分のよさを人のために生かしたい」は3.0ポイントと、どちらも県平均を上回る肯定回答となった。自分のよさに気づき、自信をもって活躍できる生徒を育成するためにも、一人一人の特性をよく見て、個に応じたきめ細やかな指導を今後も継続していきたい。

○「自分の能力を十分に発揮したい」の肯定回答は96.4%と高く、県平均を3.1ポイント上回った。学校行事や日常生活の中だけではなく、社会体験学習や進路指導等も通して、より自分自身や将来について考えるきっかけを与え、自身の力を存分に発揮できる場を確保していきたい。

○「毎日朝食を食べる」の肯定割合は94.9%と高く、県平均を13.8ポイント上回る結果となった。毎月発行される「保健室だより」や「給食だより」等による、家庭への連絡や生徒への健康に関する指導が充実している成果と思われる。また、今年は過去に例のない猛暑だったため、くり返し「健康・安全」に関する啓発指導を行えたことも良かった点である。

●「話し合いに自分から進んで参加する」は2.0ポイント、「授業で自分の考えを発表する」は3.0ポイントと、どちらも県平均を下回った。各教科において「思考力・判断力・表現力」を育成するために、自分の意見をじっくりとまとめ、言葉で他人に伝え、考えを整理したり深めたりできるような授業展開の工夫を行う必要がある。また、それに併せて「書く力」の充実にも継続して取り組んでいきたい。

●「1か月の読書冊数」は、県平均に比べると読書している生徒の割合は2.1ポイント高い結果ではあったが、なかなか読書が進まない生徒も21.3%いる状況であった。800人を超える生徒たちが、昼休み等に図書室を利用するにはゆとりがない現状であるため、各教科等でも図書室の有効活用をうまく進められるよう工夫する必要がある。毎朝の読書の時間は、静かに集中して行えているので、より読書活動の充実を図るため、指導を継続していきたい。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・目標に向かってあきらめずに、粘り強く学びに向かう生徒の育成	・自主学習ノートやAIDリルの活用等により、家庭学習の習慣付けと学習内容の充実を図る。 ・課題に粘り強く取り組む生徒の育成を図る。	・「学校以外の学習時間(平日)」は、30分～1時間の割合が68.0%と一番高く、2時間以上の割合は県平均から5.4ポイント下回った。 ・「難しい問題であろうと、やる気が出る」の肯定回答は24.0%となり、県平均を13.2ポイント下回った。また「自分一人の力で課題を解決しようとする」では、肯定回答は73.6%で、県平均より1.5ポイント下回る結果となった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・「授業の内容はよく分かるか」の質問では、肯定回答が県平均から大きく下回るものがいくつかあった。	・「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善を図る。 ・「本時の目標」を確実に理解させ、「振り返り」から生徒の学びに向かう態度を適切に見取ることで、課題に粘り強く取り組むことができる生徒の育成を図る。	・全ての生徒にとって分かりやすい授業の展開を工夫する。授業の際は『本時の目標』を明確化し、学習の見通しをもたせる。また、『振り返り』では自身自身の学習の成果と課題を認識させ、主体的に学ぶ姿勢を身に付けさせる。 ・ペア学習やグループ活動等、協働的に課題を解決する時間を確保するとともに、思考力・判断力・表現力等を高める問いをもてるように工夫する。 ・一人一台端末を積極的・有効的に活用し、個別最適な学びの実現を推進する。